



行谷小学校 学校だより

日本一のトキの学校

# トキっ子

第10号 [1月号]

令和2年1月20日発行



シリーズ「新しい時代の幕開け」

## ライオンとねずみ ~ 本は「心の栄養」です~



今年もよろしく  
お願いいたします。

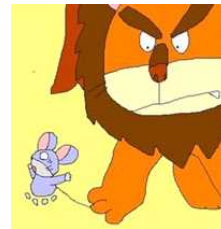
校長 笠井 猛雄

3学期の始業式で、イソップ物語「ライオンとねずみ」を紹介しました。

ある日、ライオンが昼寝をしていました。  
そこへねずみが通りかかりました。  
ねずみはライオンの背中にとび乗ると、  
跳んだり、はねたりして遊び出しました。  
それに気付いたライオンが目を覚めました。  
ライオンは逃げるねずみを捕まえて食べようとしてました。  
ねずみは言いました。

「ライオンさん、助けてください。  
もし助けてくれたら、きっと恩返しをします。」  
「なに？ おまえみたいな小さなやつに何ができるんだ。  
むりに決まっている。でも、今はおなががすいてないから、  
おまえを食べないで助けてやる。」

ライオンは そう言って、ねずみを放してあげました。  
ある日のことです。  
ライオンは、人間がつくった罠にひっかかってしまいました。  
ライオンは逃げる事ができません  
ライオンがあきらめかけたその時です。  
ねずみが網をかじって助けてくれました。  
「あの時ぼくを助けてくれた恩返しです。」  
ライオンは、恥ずかしそうにお礼を言いました。  
「ねずみさん、ありがとう」



※内容は一部改作

絵は「まーくんのイラスト集」から  
<http://maakunn0521.blog93.fc2.com>

イソップ童話は、教訓めいた話が集められた寓話集です。  
では、「ライオンとねずみ」は、何を説き明かすことを意図したのでしょうか。  
それは、ひとつではなく、人それぞれの捉え方は多様です。

「ねずみは恩返しをするという約束を守った。約束を守ることは大切だ。」  
「助けてもらったなら、恩返しをすることやお礼を言うことが大切だ。」  
「親切にしたり、よいことをしたりすると、自分にもよいことが返ってくる」  
「どんなに力がある者でも、他人の力が必要な時がある。協力が大切だ。」  
「みんなそれぞれ得意なことがある。あきらめずに自分の力を信じる。」

果たして子どもたちは、このお話から何を学んだのでしょうか。  
次のように、子どもたちに話をしました。

イソップ物語のようなお話や本は、私たちが生きるために大切なことを教えてくれます。大きくなるために、私たちは食事をして栄養をとりますが、本は「心の栄養」になります。本を読んでも体は大きくはなりませんが、心が大きくなって豊かになります。今年も好きな本をたくさん読んで、心も体も大きく成長してほしいと思います。

出口汪氏は言います。(『本物の教養を身につける読書術』(ぴあ)より)

「知識はネットで身に付くが、教養は本からしか手に入らない。」

本には、先人の知恵や経験がぎっしりと詰め込まれています。

読書を通じて、偉人や成功者の追体験をしたり、筆者の考え方や登場人物の言動から学んだりすることができます。

読書をすることで、深く物事を学ぶ機会が得られます。

インターネットでも知識や技能は得られますが、それは、インスタント的、興味本位の娯楽的なものが多いのではないのでしょうか。

令和は子どもたちの時代です。

読書に親しみ、本物の教養を身に付けてほしいと思います。

